多可 子ども タイムズ

2015.3.1
平成27年 30号

発行:多可町教育委員会
〒679-1134　多可郡多可町中区茂利20
TEL:0795-32-2385　FAX:0795-32-4142
E-mail：kodomo@town.taka.lg.jp

表紙写真　環境体験学習　3年生ソバ打ち体験（撮影:松井小学校）

おもな内容

・子ども・子育て支援事業計画を策定しました
・ぴっくあっぷ学校園

子ども・子育て支援事業計画を策定しました（H27～31年度）

国では、子ども・子育てを取り巻く社会情勢の変化を受け、新たな支援制度を構築していくため、「子ども・子育て関連3法」が制定されました。新たな制度のもとでは、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指すとの考えを基本に、制度・財源を一元化して新しい仕組みを構築し、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」「保育の量的拡大・確保」「地域の子ども・子育て支援の充実」を総合的に推進していくことが目指されています。

多可町においても、子ども人口が減少を続けるなかで、子どもたちにとってふさわしい幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的・一体的に推進していくため、「多可町子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。

計画期間は、平成27年度から31年度までの5年間です。

■基本理念

「明日の多可町を担う　こころ豊かな人づくり」

就学前→豊かなこころを持ち、多可町の自然にふれ・ひたり、主体的に遊ぶ子ども

就学後→ふるさと多可町を愛する子ども、夢や目標に向かってたくましく生きる、こころ豊かな子ども

まちづくりの基礎は、人づくりにあります。これからの時代を担う子どもたちに、確かな学力、人を思いやる豊かな心、健やかな体など、知育・徳育・体育のバランスがとれた「生きる力」を培う教育を一層充実させていきます。

また、豊かな自然、温かい人情、良き伝統と文化を持った「ふるさと多可町」を愛し、誇りに思う気持ちを育んでいきます。そして「多可町で学んで良かった」「多可町に住んで良かった」と実感する子どもの育成を目指して取り組んでいきます。

■施策の体系

2つの重点目標と5つの基本目標ごとに基本施策と施策の展開を整理します。

（P3別図参照）

■施策の展開

【重点目標1】
就学前施設の円滑な運営と教育・保育の一体的提供

平成27年度から国の子ども・子育て支援新制度がスタートすると同時に、多可町においても就学前教育・保育の提供体制が変わります。

●3つの認定こども園の整備

これまで中区には、主に0～4歳児が通う保育所が3園と、保護者の就労状況に関係なく多くの5歳児が通う公立の中町幼稚園がありました。幼稚園は、各保育所等で4歳まで過ごしてきた子どもたちが集まり、小学校へスムーズに移行するためにも大切な場として認識されてきましたが、中区内に3つの幼保連携型認定こども園ができること、町内の子ども人口が将来的に減少をしていくことなどをふまえ、中町幼稚園は閉園することになりました。

中区内の私立保育所3園は、平成27年度からそれぞれ幼保連携型の認定こども園となり、それぞれ0～5歳児が通う保育園部に加えて、3～5歳児の幼稚園部を開設します。幼児教育の質を確保し、保護者の期待に応えるためにも、これまで中町幼稚園で培われてきた教育を受け継ぎ、職員研修等の充実に努めます。今後は教育委員会をはじめ町内の小学校や、加美区・八千代区のキッズランドとの連携を図ります。

●キッズランドの民営化の検討

また、すでに幼保一体化施設となっている「キッズランドかみ」と「キッズランドやちよ」については、認定こども園への移行、民営化について検討をしていきます。

【重点目標2】
子ども・子育て支援事業の整備・実施

子ども・子育て支援新制度に基づき、子ども・子育て支援事業に取り組んでいきます。

【基本目標1】
地域における子育て・親育て

全国的に少子化が進み、核家族化も進行し、住民同士のつながりや付き合いが希薄化していることが問題視されるなかで、子育て支援に重要となるのは地域の力です。

本町においても、「子育てについての第一義的な責任を有するのは保護者である」という基本的な認識をもちつつも、子育てを保護者のみの役割とせず、地域全体で子どもや子育て家庭を支えるという視点から、施策を推進します。

子育て世代ではなくても子どもや子育てに関わる意識をもつことができるよう、世代間の交流を推進するなど、地域全体で子育てを応援する環境づくりに努めます。

【基本目標2】
子どもの健やかな育ちを支える環境づくり

本町における子どもと母親の健康づくりのための乳幼児健診や育児教室等、母子保健事業への参加率は高い水準で推移しています。健診の啓発、周知を図りながら、個別訪問や健診後のフォローアップなども実施し、乳幼児の発育・健康状態の適切な把握や指導を進めます。子どもの心身の健全な成長の基本となる「食」についても、町として正しい情報や知識を提供し、地産地消について考える機会を設けるなど、子どもと保護者への「食育」を推進します。

子どもと母親の健康づくりのために、国が示す「健やか親子21」を受け具体的な目標値を設定するとともに、妊娠期から継続した育児支援を展開し健康診査や相談事業を充実します。

【基本目標3】
子どもが安全・安心に成長できる環境づくり

子どもが元気に遊び、学び、育っていくためには、地域が安全で、子どもも保護者も安心できる場所であることが大切です。安全教育や見守り・安全巡回パトロール員による学校園施設内や周辺及び通学路公園等のパトロールを実施し、地域ぐるみの防犯体制を整備します。また、町や学校としての指導・教育を見直し、一層の徹底を図り、さらには子どもが元気よく遊べるよう、公園の整備や道路の整備を進めていくことが大切です。

【基本目標4】
ワーク・ライフ・バランスの推進

多くの子育て家庭が直面するのが、仕事と家庭の両立です。育児休業の取得も進んできているものの、男性の取得は未だ難しい現状があります。就労と出産・子育ての二者択一構造の解消には、「働き方の見直しによる仕事と生活の調和の実現」が必要です。そのため、育児休業法や介護休業法等の周知、事業主、地域住民への広報・啓発を実施します。

【基本目標5】
要保護児童等へのきめ細やかな支援の推進

要保護児童等の早期発見と適切な保護、障がいのある子どもなど、支援を必要としている子どもや家庭への対応も重要です。本町では、児童・生徒のライフステージに応じた継続的な支援を行うために導入している「サポートファイル」の取り組みの充実を図ります。子どもの権利が尊重される社会環境づくりのため、関係団体が連携を図り、きめ細やかな支援に努めます。

◇施策体系

● 重点目標１ 就学前施設の円滑な運営と教育・保育の一体的提供

- （１）中区における就学前施設の整備
  - ①３つの認定こども園の整備
  - ②中町幼稚園の利活用
- （２）加美区・八千代区の整備
  - ①キッズランドの整備
  - ②民営化に向けた検討

● 重点目標２ 子ども・子育て支援事業の整備・実施

- （１）教育・保育事業の提供
  - ①量の見込みと提供体制
  - ②質の高い教育･保育の実施
- （２）地域子ども・子育て支援事業の提供
  - ①地域の保育事業の実施
  - ②放課後児童クラブ事業の実施
  - ③健康にかかわる保育事業の実施
  - ④その他の教育･保育事業
  - ⑤その他町内における取り組み

● 基本目標１ 地域における子育て・親育て

- （１）世代間交流の充実
- （２）体験を通じた遊び場の提供
- （３）地域交流を通じた学び場の提供
- （４）子どもや保護者の自主的な活動の充実・支援
- （５）親教育の場の提供

● 基本目標２ 子どもの健やかな成長を支える環境づくり

- （１）小児医療の充実
- （２）妊産期から乳幼児期までの健康づくり支援
- （３）相談支援
- （４）食育の推進

● 基本目標３ 子どもが安心・安全に成長できる環境づくり

- （１）地域防犯力の向上
- （２）安全な環境づくりの推進

● 基本目標４ ワーク・ライフ・バランスの推進

- （１）男女共同参画への啓発

● 基本目標５ 要保護児童へのきめ細やかな支援の推進

- （１）要保護児童へのきめ細やかな支援の推進

ぴっくあっぷ学校園

キッズランドかみ

地域ふれあいの中で

地域の良さを感じ、伝統文化に関心をもてるような保育を工夫しています。

５歳児は紙すき体験をしました。自分達ですいた紙でハガキを作り年賀状として作ってもらいます。

紙すき体験「本当に紙ができるのかなぁ」

子ども作品展でも杉原紙の原料となるコウゾの木を使っておみこしを作りました。

子ども作品展「みんなでおみこしをつくったよ」

とんど焼、昔遊び会では、老人クラブの方にとんどの由来を聞いたり、羽根つきやお手玉、こま、あやとり、紙鉄砲、メンコなどの伝承遊びを教えてもらったりして交流を楽しみました。遊んでいるうちにお餅も焼けてアツアツを食べて、ほっこり温かい気持ちになりました。お礼に杉原紙で作ったペンダントを渡しました。

とんど焼「今年も元気に過ごせますように」

昔遊び会「紙鉄砲の折り方を教えてもらったよ」

「おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう。また来てね」

地域の方のあたたかさを感じながら、加美区が大好きで、多可町に関心をもち心豊かに育つ子どもを目指しています。

キッズランドやちよ

やちよのいいとこみ～つけた

今年度、キッズランドやちよでは、【ひょうごエコっこ育成モデル園】として、『環境』をテーマに取り組んできました。

エコ活動として、１つ目は、ゴミの分別について学びました。家庭内でのゴミの分別について、日常、目にしていることが多いのか、古紙の再利用について、また、燃えるゴミとプラスチックの見分け方もよくわかっていました。この活動を通して、より一層ゴミの分別が出来るようになり、画用紙なども無駄に使わなくなってきました。

２つ目は、生ゴミの利用です。給食に使われた野菜のくずを土に入れ、変化を見ていきました。5月下旬には、まだ、野菜も少し残っていましたが、その土を畑に運び、6月にさつま芋の苗を植えました。野菜は堆肥になるということに気が付いた活動でした。

また、今年度は「故郷を愛する心」「自然の中での原体験」を大切に育てたいと、園庭や園周辺での遊びを存分に楽しみながら、行事としても、わんぱくデーを数回実施し、自然にふれひたってきました。

自然の中で、神秘さや不思議さに目を見張り、「感じる心」を育み、それを友達や保育者と分かち合うことを目的とした活動です。

八千代区の様々な場所に出かけ、様々な体験をしてきました。ぽかぽか隊（保育ボランティア）の保護者の方や、地域の中学生や高校生なども巻き込んで、四季折々の素晴らしい景色をみながら、その季節に応じた楽しい活動をしてきました。

これらの取り組みを神戸市で開催された「ひょうごふるさと環境フォーラム」で発表し、様々な環境問題に取り組まれている他園や、施設、各団体の方にも、多可町八千代区のいいところ、またキッズランドやちよの素晴らしさも伝えることができました。

ぷ学校園

中町北小学校

受け継いでいくもの～憧れを力に～

上級生の勇姿に憧れ、それに一歩でも近づくために下級生が努力する中から、そして、それを上級生が丁寧に教え、ときにほめて、育てる中から、素晴らしい伝統が醸し出されています。

【鼓笛の引き継ぎ】11月7日

鼓笛の引き継ぎは、単に楽器が渡されるだけでなく、楽器の扱い方、音の出し方、練習の仕方などを上級生が直接伝授していきます。5年生にとっては来年度の鼓笛演奏へ向けてのスタート。6年生にとっては苦楽を共にした楽器とのお別れ…寂しさと共にちゃんと伝えなくては、という責任もあります。自分の担当した楽器のポイントを手紙にまとめ、下級生に託す6年生もいます。

吹いていくうちに時々とてもきれいな音が出たり、6年生のAちゃんに「うまい、うまいっ！」とか「すごいやん」ってほめられたので、とてもうれしかったです。（5年女子）

【校内書き初め大会】1月9日

体育館で、ペアになった上級生と下級生が、新年にちなんだ言葉や今年の目標・決意などを半紙に書きました。初めて筆を持つ子もいたので、上級生は字のバランスや、とめ・はらいなど、年下の子にも分かるように、丁寧に教えながら進めました。上級生が書いているすぐ横では、それこそ、じっと息も殺して下級生が見守っています。静かに集中した中にもほのぼのとした空気の流れる大変良い時間でした。

おにいさんたちのかん字がすごくかっこいい字でした。ぼくもおにいさんたちみたいになりたいです。(1年男子)

【歌舞伎校内発表会】1月28日

校内発表会は歌舞伎クラブの一年間の締めくくりとなる舞台です。今年のメンバーでの最後の出演となるこの舞台を終えれば、歌舞伎もまた次の世代へと引き継がれていくことになるからです。中北小のみんなや保護者や地域の方々の前で、きっと素晴らしい演技を披露してくれると期待しています。

先輩から後輩へ、上級生から下級生へ…何年、何十年もの時を重ね伝えられてきた、憧れを形にしてゆく力…そんな伝統こそが、大切にしたい宝なのです。

松井小学校

松井っ子 さわやかあいさつ運動実施中

あいさつは、簡単にできて、それでいて、絆を結ぶには最高のものです。松井小学校では、「あいさつができ、すくすく伸びる　松井っ子」をめざす児童像に掲げ、3年間取り組んでまいりました。具体的な取組は次の通りです。

①児童会を中心とした朝の校門でのあいさつ運動の展開

②下校時のスローガン「あいさつはいつでも　どこでも　だれにでも」斉唱

③「止まって　一礼～笑顔で、おはよう、こんにちは、さようなら」の習慣化

④「これができたらあいさつ名人」の朝の学習時に斉唱

⑤あいさつ名人表彰（個人の部、学級の部、地区の部など）による褒め場づくりと啓発活動

⑥2ケ月に一度のあいさつ自己点検・評価の実施

～あいさつはいつでも　どこでも　だれにでも～

これができたら　あいさつ名人

あかるく　あいさつ
いつでも　どこでも　あいさつ
さきに　あいさつ
つづけて　あいさつ
できれば　めをみて　あいさつ
とまって　いちれい　達人あいさつ
もし　あいさつされたら　かえそうあいさつ
だれにでも　あいさつ
ちいきのひとにも　すすんで　あいさつ
よくきこえるこえで　あいさつ

これができたら　あいさつ名人

本校への来校者の皆様からは、「松井っ子のあいさつはすばらしい」「一礼して笑顔でさわやかなあいさつがいい」「進んであいさつしてくれる子が増えてきた」とのお言葉をいただいています。

これからも、「いつでも　どこでも　だれにでも」をスローガンに、あいさつの輪を広げていきます。地域の皆様も、松井っ子の「さわやかあいさつ」に接する機会がありましたら、「あいさつは」と問いかけてみて下さい。きっと「いつでも　どこでも　だれにでも」と笑顔で答えることと思います。このさわやかあいさつ運動が、学校・地域から多可町いっぱいに、広がるよう、松井小学校のPTAとともに取り組んでいきます。

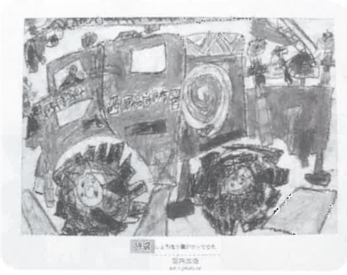
八千代南小学校

八南小の取組 がんばる八南っ子

☆兵庫県小・中・高校絵画展 『優秀校』受賞！

本校の絵画作品への取組が評価され、標記の「優秀校（神戸市教育委員会賞）」を受賞しました。昨年度に引き続き2年連続の受賞となりました。

この絵画展は、県内の児童生徒の作品展として長い歴史を持ち、今年度で87回を数えます。学校規模に関係なく、原則学年1点のみ出展することができます。本校代表6点すべてが入選したことが評価されました。



児童の取組、写生場所を提供いただきました保護者・地域の方々のご協力に感謝いたします。今後も引き続いて、感性豊かな作品づくりができますようがんばってまいります。

☆体力アップスクール表彰

『一輪車を取り入れた体力アップの活動』で、平成26年度体力アップスクール表彰を受けました。

「一輪車を常用することで、児童の体力向上に努め、運動会や地域の介護施設において一輪車演技を披露している。また、様々な高度な技に挑戦し、それを達成することによって、自己肯定感を育んでいる。」ことが評価され、県下で10校の中の1校に選ばれました。

子どもたちは、始業前・業間休み・昼休み・下校前と毎日一輪車に乗り、それぞれの技能を向上させようと一生懸命取り組んでいます。

表彰という目に見える取組の一端をご紹介しましたが、教職員も日々研修に励み、自らの能力向上に励んでいます。

八南小としてあと1年。職員も頑張ります。

中町中学校

学級活動 ～リーダーの育成～

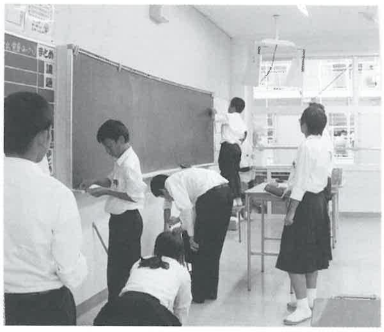
中町中学校では「生徒がつくる学校」を目指す一環としてリーダーの育成に取り組んでいます。例えば、毎年3月には生徒会役員と教師が学校について考える「リーダー研修会」を実施しています。このような取り組みを通じて、生徒会が主体的に学校生活や行事運営について参加できることが本校の大きな特徴です。

今回はリーダー育成のため本校が取り組んでいる「班長」について紹介します。

学級単位で「班長」という役割を設け、学級運営について「班長会」で話し合います。学期ごとに立候補もしくは推薦で各クラス6名の班長が選出されます。さらに、班長は5～7名の班を組織し、授業中のグループワークや給食、清掃などに共に取り組みます。班長会では、学年行事の運営やクラスの課題について話し合われています。班長からは「もっと発表できるクラスに」「挨拶がしっかりとできるクラスに」などといった意見が交わされます。どの班長もよりよいクラスにするため一生懸命。

授業中も班で協力して考えます！

本年度も1年間で全校生315名中、162名が班長を経験しました。班長を経験した生徒は「しんどかったけど、やりがいがあった」と感想を口にしています。これらの班長の中から、生徒会役員として、「学校を引っ張ろう」という熱い思いを持った生徒が毎年現れます。今後も是非「班長」の活躍と成長にご注目ください。



清掃も班で協力！

ぴっくあっぷ学校園

加美中学校

寒さを吹き飛ばせ！校内マラソン大会

12月19日、前日の雪で開催が危ぶまれていた校内マラソン大会でしたが、スタートとゴールの場所を変え、無事に開催できました。道端には所々雪が残り、地面が凍てつくなど、決してコンディションは良い状態ではありませんでしたが、生徒たちは半袖短パンで、男子は5.7km、女子は3.4kmの道のりを走りきりました。マラソン大会前日まで、体育の授業や、部活動で練習をし、この日を迎えました。

加美中学校のマラソン大会は40年以上前から続いています。今回は歴代の記録のベスト50を、男女合わせて6名がぬり変えるという好記録を出し、女子においては、歴代1位タイ記録を出す、すばらしい走りを見せてくれました。走り終えた生徒たちの表情からは、疲れ以上に充実感や、達成感を感じ取ることができました。また、保護者の方や地域の方も応援に来てくださり、コース近くの小学校の児童からも元気な声援をもらい、生徒たちの大きな励みになったと思います。

公共の道を安全に走ることができるのも、協力してくださる方々のおかげであることを、今年も実感できたマラソン大会でした。

多可高等学校

★東日本大震災復興支援ボランティア活動

12月14日～17日の日程で、生徒20名が宮城県宮城郡七ヶ浜町に行きボランティア活動をさせていただきました。

多可高校が七ヶ浜町を訪れるのは今回で4回目です。七ヶ浜町の方からは、震災後から継続して活動・支援してくれる団体が減っている中で、本校生が継続して訪問し、活動することを楽しみにされていると伺いました。

総合的な学習の時間や福祉の授業で、絵手紙やクリスマスカードなどを作成し、全校生の被災地への想いを20名の代表者が届けました。老人介護施設や児童福祉施設、幼稚園、仮設住宅を訪問し、清掃活動やレクリエーション活動を実施して、被災者の方々との交流を深め、人と人との絆の大切さをより強く認識することができました。

また、多可町の皆さまには、ふるさと産業展や紅葉まつりなどで募金活動にご協力いただいたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

★フレンドシップコンサート

1月24日には、第5回多可高校フレンドシップコンサートをベルディホールで実施しました。演劇部によるオープニングに続き、八千代中学、加美中学、中町中学、多可高吹奏楽部の演奏、フィナーレは、総勢約80名の合同演奏で締めくくりました。大編成ならではの迫力ある演奏で、客席とともに楽しむことができました。

今後も中学校と高校の枠を超えた活動を継続していきたいと考えています。